

「土に触れようプロジェクト」で子どもにも自然体験の機会と笑顔を届けたい

子どもが小さいうちに自然に親しむ体験をさせたいと願う親は多い。幼稚園ママをターゲットとしたフリーマガジン「あんふあん」で実施した、親子で一緒に農業を体験する「土に触れようプロジェクト」の現場には、参加者の笑顔があふれていた。

野菜作りやイベントの場を提供 親子で楽しい土との触れ合い

どろんこ遊びや虫取りをはじめ自然の中での遊びを子どもに体験させたいという親の願い。それをかなえるべく「あんふあん」で実施した「土に触れようプロジェクト」は、都心で暮らし自然に触れる機会の少ない幼稚園児が、家族と一緒に土に親しんでもらう企画だ。

2010年3月、東京都練馬区の農園内に誌面で募集した4家族とともに「あんふあんファーム」を立ち上げ、ハウレンソウやニンジン、ピーマンなどさまざまな野菜を育てていった。指導者のもと家族ぐるみで種まきから除草や害虫駆除、水やりなどの農作業を通して土に触れ、猛暑だったにもかかわらず多くの収穫を得た。作業経過や野菜の生育状況は、誌面のほか「あんふあんぶる」のサイトにブログを開設



2010年にスタートした練馬区の「あんふあんファーム」。10月には「初めて土にネギを植えたよ」

夢だったキュウリの丸かじり

して報告。成長に伴い姿を変えていく野菜の姿を読者が追って観察できるようにした。

5月には「The Green Friendプロジェクト」の協力で、苔玉作りのワークショップを実施。30組の親子が集まり、土をこね苗木を植えて苔玉を完成させ持ち帰った。7月は「あんふあんファーム in 長野」で自然体験を開催。5家族が参加して、ブルーベリーやレタスの収穫、ハーベキュー、ホタルの観察など、1泊2日で長野県の自然を満喫した。どれも定員を大幅に超える申し込みがあり、子どもの自然体験への強い要望、手応えを感じた。

親子の体験を応援するプロジェクトの展開には企業のバックアップやサポートがカギ。今後もさらなるPR活動を行っていく。



「見て！こんな大きな苔玉にオメメをつけたよ」

Interview

これからも増やしたい 自然に触れた親子の「いい笑顔・いい表情」

サンケイリビング新聞社
第1営業局あんふあん事業部 編集長
三山百合子



「土に触れようプロジェクト」の参加者は、みんな実によく表情をするんです。しゃがんで作業をするうちにお母さんと子どもの目線が同じ高さになって、「虫がいる！」と同時に発見して驚く。土をこねたりカプトムシを探しているうちに、子どもより夢中になったお父さんが見せる少年みたいな表情。子どもと一緒に自然に触れるうち、大人も童心に戻ってリフレッシュするんですね。子どもたちも五感が開放されて、嫌だったピーマンが食

べられるようになったり、汚れるままに土の匂いや手触りを楽しんだり。参加者たちが企画を通じて仲良くなるのもうれしいです。

「あんふあん」は幼稚園を通して配布するフリーマガジンなので、読者の76%が専業主婦。子育てや教育に熱心で、小学校入学前の親子と一緒に行動しやすい時期に、いろいろな経験をさせたいと考える母親が多い。今後も子どもたちの幸せな笑顔が浮かぶような企画を考えています。

2011年のチャレンジ

- ★ 園児が「本物」に触れる企画の実現。たとえば、クラシックバレエをプロに指導してもらうなど
- ★ 消防士、シェフなど子どもがイメージしやすい仕事に関するコラムの連載